



監督：フィル・ティペット
出演：アレックス・コックス
／ニキータ・ローマン

マッドゴッド

2021年／アメリカ映画
配給：ロングライド／84分

2022（令和4）年12月10日鑑賞

シネ・リーブル梅田

👁️👁️ みどころ

“特殊効果の神様”とか“ストップモーション特撮の神様”と呼ばれているフィル・ティペット監督が30年間にわたって温めてきた地獄絵の世界が、84分間にわたって大スクリーン上で展開。

私は子供心に、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』や『杜子春』の地獄絵を怖いと思ったが、本作はそれとは全く異質の、21世紀型、そしてまたフィル・ティペット監督流の地獄絵だ。この手の映像が好きな人にはたまらないだろうが、私には、Too much, no more thank you・・・。



◆天国よりも地獄に惹かれる。そう語る“特殊効果の神様”と呼ばれている巨匠、フィル・ティペットの潜在意識からあふれ出したのは、かつて誰も見たことがない暗黒世界。

本作のチラシには、「人類最後の男に派遣され、地下深くの荒廃した暗黒世界に降りて行った孤高のアサシンは、無残な化け物たちの巣窟と化したこの世の終わりを目撃する。」と書かれているが、本作のスクリーン上に映し出されてくる映像は、まさにそれだ。

◆フィル・ティペット監督は、ハリウッドの大作監督たちから「ストップモーション特撮の神」と崇められているそうだが、この世の終わりに、地下深くの暗黒世界に潜入した主人公アサシンが目撃する百鬼夜行の地獄絵図とは？

製作開始から約30年を経て、2021年に完成させたストップモーションアニメである本作は、アサシンが目撃する百鬼夜行の地獄絵図をスクリーン上に美しい(?)映像美で映し出していきが、セリフは一切なく、音楽の流れの中で綴られていくので、残念ながらストーリー性に乏しい。そのため、私は途中から少し退出して行くことに・・・。

◆私は小学生時代に日本文学全集と世界文学全集の主だったものを読み終えたが、子供心に日本文学で“おどろおどろしい世界”をイメージしたのは、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』や『杜子春』にみる地獄絵だ。

本作は、そんな純朴な地獄絵とは全く違う、21世紀型の、そしてまたフィル・ティペ

ット監督の頭の中に浮かんできた地獄絵だから、その手の映像が好きな人は、それをタップり楽しみたい。もっとも、私は Too much, no more thank you だったが・・・。

2022（令和4）年12月15日記